

家計金融調査からみる 人種・民族による資産選択の違い

大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程

久田貴紀[†]

要旨

本稿はアメリカ合衆国の人種・民族によるリスク許容度及び資産選択の違いを分析している。先行研究よりロバストな推定を行うために、白人と非白人でマッチングを行い、属性の類似したサンプルに限定して分析を行った。分析の結果、先行研究の結果と異なり、白人、黒人、ヒスパニックはリスク許容度を同程度持つ可能性が高いことが分かった。また、7つ資産を分析することにより、白人と黒人は株式を含むほとんどの資産を保有する可能性が同程度であることが分かった。一方、ヒスパニックは、白人と比較してほとんどの資産を保有する可能性が低いことが示された。資産選択の違いが生じた要因は、黒人では人種・民族の違いが影響している可能性は低く、ヒスパニックでは人種・民族の違いが影響している可能性が高いことが明らかとなった。しかし、実際には、白人と非白人には富の格差がある。以上の分析結果は、黒人と白人という人種・民族の違いが富の格差に結びついていないことを示唆している。一方、白人とヒスパニックという人種・民族の違いが富の格差に影響を与えていることを示唆している。

JEL classification: G11, D12, G19

キーワード: 資産選択, リスク許容度, 人種・民族の違い

[†] Email: pge023ht@student.econ.osaka-u.ac.jp